

令和6年度 広陵町子ども・子育て会議 議事要旨

日時:令和 6 年 8 月 5 日(木)午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分

場所:広陵町総合保健福祉会館 4 階 大会議室

1. 会議次第

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 町長あいさつ
4. 教育長あいさつ
5. 会長、副会長選任
6. 会長あいさつ
7. 議事
 - (1)広陵町子ども・子育て会議の概要について
 - (2)計画と実績(令和 5 年度)の比較について
 - (3)各課取り組みの実施状況及び評価について
 - (4)その他
8. 閉会

2. 配布資料(事前送付分含む)

- ・会議次第
- ・広陵町子ども・子育て会議委員名簿
- ・資料1 「広陵町子ども・子育て会議」の概要について
- ・資料2 計画と実績(令和5年度)の比較について
- ・資料3 各課取り組みの実施状況及び評価
- ・広陵町子ども・子育て支援事業計画(第2期)
- ・子育てパンフレット(令和6年度版)

3. 会議出席者

委員 16 名のうち 13 名出席

事務局 9名

オブザーバー 1 名

4. 議事要旨

1. 開会
事務局の進行により開会

2. 委嘱状交付

委員を代表して公募委員2名に町長から委嘱状を交付。

3. 町長あいさつ

「委員にご就任をお願いした方々、公募にご応募いただいた方々に感謝。若者の声をしっかり反映させるべく、若者代表として今回は3名の方にお入りいただいている。

国では少子化が進む中、様々な取り組みが行われてきた。広陵町でも子ども・子育て支援事業計画を定め、これを基に様々な事業を進めてきた。令和5年にこども基本法が制定され、こども大綱が閣議決定された。皆さまからは今後こども計画策定に向けた様々なご意見を頂戴したい。

町の施策としては、中学校給食、町立北かぐやこども園の開園、公私連携で畿央大学付属広陵こども園の開園があり、令和8年に公私連携のときわ広陵こども園の開園に向けて現在準備に取り組んでいる。

今年の4月から、こども局を教育委員会に移し、子どもに関わる施策はすべて教育委員会で一元化して対応している。今年中に教育委員会をさわやかホールに移転し、窓口を一本化するため、現在さわやかホールの2階改修の議論を進めている。

また、放課後子ども育成教室について、希望が多く、待機が出る状態になっている。令和6年に真美ヶ丘第一小学校を民間委託し、来年は東校区を除いた全ての地域で民間委託をし、令和8年はときわ広陵こども園の開園に合わせて東校区も民間委託をする計画。スタートでは保護者の皆様方に変なご心配をおかけしたが、しっかりと対応し、子ども達が困らないよう、保護者の皆様方に不安やご心配をおかけしないよう取り組みたいと思っている。

今日は第1回の会合。いろいろなご意見を頂戴できるとしており、一緒に聞かせていただきたい。」

4. 教育長あいさつ

「日頃より広陵町の子ども・子育て支援にご尽力いただき感謝。私の強い思いであった0歳から18歳までの一貫通貫的な子ども・子育て支援と教育を進めるために、4月からこども局をけんこう福祉部から教育委員会に編入し、子ども・子育て支援と学校教育を結ぶ「こども真ん中社会」の実現に向けて頑張っていきたい。先月7月16日には第1回こども会議を開催。第2回は12月くらいになると思うが、子ども達の思いを学校に吸い上げてもらい、町と教育委員会に届けてほしいと思っている。この子ども・子育て会議でも子ども達の要望みたいなものを何らかの形で提案させていただき、一緒に委員の皆さまと議論をしていただけたらありがたい。本日は活発なご意見をいただきながら進めていただければと思う。」

5. 会長、副会長選任

会長、副会長を決定

6. 会長あいさつ

〈会長〉

「皆さんの忌憚ないご意見をお伺いして活発に議論を進めながら会議を進めてまいりたい。」

〈副会長〉

「一般社団法人の代表理事を務めている。子ども達や子どもを支える親御さんの皆さんも支え合って初めて子どもに笑顔があふれると思う。皆さんと協力、議論しながらいい町広陵町をつくっていききたいと思う。」

7. 議事

〈事務局〉 議事(1)について説明

配付資料に沿って、広陵町子ども・子育て会議について説明。あわせて、広陵町子ども・子育て支援事業計画、広陵町こども計画のスケジュールを確認。

〈事務局〉議事(2)(3)について説明

配布資料を基に、各事業の令和5年度の状況等について説明。

〈会長〉

「議事1番から3番について、委員の皆さんにご質問やご意見を順番にお聞きする。」

〈委員 A〉

「これから子ども子育て支援事業について勉強させていただきたい。」

〈委員 B〉

「今回いただいた資料を改めて見て考えてから質疑させていただきたい。」

〈委員 C〉

「広陵町に住んでいながら知らない取組や支援がたくさんあった。また分からないことや聞きたいことがあれば質問させていただきたい。」

〈委員 D〉

「学童について、何年か前に真美ヶ丘第二小学校区では2か所あったクラブが1か所になったが、現在学童の利用者が増えている中で、そこが復活する可能性はあるか。」

また、広陵西小学校区では新しい家がどんどん建ち、一時期学童に全然入れないという話や4年生以降は学童から出されてしまうという話を聞いているが、どのような対応をしていくのか。」

→〈事務局〉

「以前、真美ヶ丘第二小学校区では児童が多かったために、小学校増築校舎(すぎのきクラブ)と外にある「もくせいクラブ」の2つを使って学童運営をしていた。児童数減少に伴い、2つのクラブを1か所にまとめた経緯がある。今後の児童の増減の推移を見てみると、もくせいクラブが復活す

るということはないと推測している。ただし、「もくせいクラブ」の跡地利用については現在検討中。

2つ目の質問である西小学校区で現在定員を超える人数については、選考という形をとらせていただいている。その際の選考基準として、低学年(1～3年生)は点数に加算があり比較的に入所しやすいが、4年生になったからといって学童に通えなくなる訳ではない。家庭の事情等を勘案しなるべく入っていただける形になっている。現在、西小学校区では待機児童が出ているが、利用者の退会で空きが発生した際はすぐにお声がけして、入っていただく形で進めさせていただいている。」

→〈会長〉「学童の問題は懸案事項だが、キャパシティだけの問題でなく、指導員の数も足りないということで、学生に声をかけたりしている。引き続き対応をお願いする。」

〈委員 E〉

「いろいろな支援をされていると感じた。私は自宅で言語聴覚士と一緒に教室をしている。広陵町の言葉の教室の実施状況はどうなっているか。」

→〈事務局〉

「言葉の教室というのはもともと通級指導教室が基になっている。当初、10年以上前だが、通級指導教室が始まった時には言葉の教室で、吃音であったりの子ども達に対して言葉を改善するための指導が行われたという経緯がある。今は通級指導教室は言葉の教室よりも、ほとんどが発達障害の中で軽い子たちが中心になっており、言葉の教室が段々なくなってきつつある。実際のところ、まだ言葉の教室も一部、通級指導の中ではされている。ただこれはあくまで小学校から。乳幼児についてはまだそこまでいっていない状況。言葉の教室自体が変わってきたというのもある。」

〈委員 F〉

「1歳の子がおり、自分の子どもの年齢に関わるころに興味がいきがちだが、今回小学校の子ども達へどういう事業がされているか聞いて参考になった。10ヶ月健診廃止について、廃止された経緯はその分個別での支援を拡充したと伺ったが、個別相談数が増えたか聞きたい。また4か月健診から1歳半まで時間が空くが、そのフォローは。」

→〈事務局〉

「地区の保健師がいるので個別に対応はしている。個別相談数については数値としてはつかんでいないので、次回報告する。」

「未就園児対象でなかよし広場がある。子育て世代同士ふれあう機会や個別相談、身体計測を行なっている。地区担当保健師が家庭や子どもを見て、対応できるように周知も進めていきたい。電話相談のハードルも下げていきたい。」

〈委員 G〉

「子育てマルシェとはどのようなものなのか。」

→〈事務局〉

「図書館の中のカフェで開催し、イベントを行っている。子どもや親子で気軽に参加できる交流会のようなもので、これをマルシェと名付けている。」

〈委員 H〉

「公民館映画祭は45人の参加があったというが、なぜ今後の方向性では廃止となったのか。」

→〈事務局〉

「以前は3部開催で人数もあふれるぐらい大人気だった。実施には著作権の関係等もあり、費用対効果で考えると厳しい。需要に合わせられないため、実施するなら他の事業で考えていきたい。」

〈委員 I〉

「育成クラブの利用人数が増えており、来年度から東小学校以外の学童はすべて委託に変わるので業務運営委託の説明会が9月に開催されるということなのでそれを聞いてからまたいろいろ相談していければと思う。」

→〈事務局〉

「保護者や指導員に対してきっちり説明してスムーズに移行できるように進めていきたい。」

〈委員 J〉

「通級教室や学童でグレーゾーンの子に対しての需要が高まってきている。学童の利用者も多くなっている。連携を取りながら進めていきたい。また、駐車場も逼迫している。保護者の送り迎えの時間にぶつかると混雑し危ない状況。」

〈委員 K〉

「広陵町がますます子育てしやすい町になるよう、皆様の力になれるよう頑張っていきたい。」

〈副会長〉

「広陵町には子育てに関して良いサービスがあるのに、それが伝わっていないことがもったいない。それをどう伝えていくか、よりサービスを利用する方が増えていくかを考えていけたらいい。また子ども達に対してどのような支援が必要か考えていきたい。」

〈会長〉

「少子化の中にもかかわらず、広陵町は子どもの数が増えていることは素晴らしいと思う。虐待のチェックや個別の様子見など素晴らしい取り組みが多くある。小学校の学童の件の課題など、課題によって町のイメージがマイナスにならないように一生懸命取り組んでいきたい。」

〈事務局〉議事(4)について説明

次回開催は10月頃を予定。子ども・子育て支援事業計画の素案及びこども計画のアンケート案をご審議いただく予定。

〈会長〉

「最後に、町長、教育長からご意見を頂戴したい。」

〈教育長〉

「子ども子育て会議の参加は初めてで、今回念願叶っての参加となった。0歳から18歳までの切れ目のない支援というのがすごく大事だと私はいつも思っている。そういう意味では学校教育だけでなく就学前教育の段階でつながりを含めて対応していかなければならない。昨年から進めている5歳児の子と小学1年生をうまくつなげるための広陵町架け橋推進委員会を開いている。スムーズに小学校につなげるため、子ども・子育て会議でもお話を聞かせていただけたらありがたい。」

〈町長〉

「担当部局がしている子どもに関わる施策を、本当に正しく目的通りになっているのかを、この子ども・子育て会議委員の皆さんに見ていただきたい。改善すべきところは改善していくべきだし、廃止が全て悪いわけではない。新たな施策に転換していくところもあっていい。政策には完全な正解はないが、できるだけ良い評価をもらえるよう、町としては政策をまとめる努力をしている。いろんな声を頂戴した中で計画が出来上がればいいと思っている。皆様方のご協力をお願いしたい。」

〈会長〉

議事を終了。

8. 閉会

(以下余白)